

言語聴覚士学科(昼間部2年制)

系列		開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	単 位 数	1 年		2年		講義概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
							前期	後期	前期	後期						
専門基礎分野	基礎医学	医学総論 Introduction to Medicine	必修	講義	15	(1)	15				医学の目的や内容の変化、健康と病気に関する学習を通じ、医療従事者としての医療に関する基本的な考え方、あるべき姿について説明できる。	◎	○	○	○	○
		解剖学 Anatomy	〃	〃	15	(1)	15				人体の形態や構造を理解する。人体の基本的組織全般の構造や系について説明できる。	◎	○	○	○	△
		生理学 Physiology	〃	〃	30	(1)	30				生体機能が器官、組織、細胞レベルでどのように発現、調整されているか理解し、人体全体の機能や発現機序について説明できる。	◎	○	○	○	△
		病理学 Pathology	〃	〃	15	(1)	15				病理を通じ、人体の様々な疾病の形態と機能の異常について理解できるようになる。	◎	○	○	○	△
	臨床医学	内科学 Internal Medicine	〃	〃	30	(1)	30				言語聴覚士に必須である内科疾患の知識を系統的に修得する。特に高齢者に多い疾患における各臓器の特殊性や疾病像を説明できるようになる。	◎	○	○	○	△
		小児科学 Pediatrics	〃	〃	30	(1)		30			成長発達段階にある小児の特性をふまえ、主にリハビリテーションに関連する小児疾患について説明できるようになる。	◎	○	○	○	△
		精神医学 Psychiatry	〃	〃	15	(1)		15			精神医学の基礎を学び、リハビリテーションスタッフとしての精神医学的援助のあり方について説明できるようになる。	◎	○	○	○	△
		リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine	〃	〃	30	(1)		30			リハビリテーションの理念と基本原則を理解し、各分野のリハビリテーションの展開や使用器械について説明できるようになる。	◎	○	○	○	△
		耳鼻咽喉科学 Otolaryngology	〃	〃	30	(1)		30			言語聴覚に關係する耳、咽喉、鼻の部位について、その形態や機能、疾患について説明できるようになる。	◎	○	○	○	△
		臨床神経学 Clinical Neurology	〃	〃	30	(1)		30			臨床疾患、筋疾患の病態、発症機序、また、疾患の神経学的徴候について説明できるようになる。	◎	○	○	○	△
		形成外科学 Plastic Surgery	〃	〃	15	(1)	15				口唇、口蓋裂等の先天的奇形や外傷、変性を伴う身体疾患について形成外科の立場から概観し説明することができる。	◎	○	○	○	△
	口腔学・歯科学	臨床歯科・口腔外科学 Dental and Oral Surgery	〃	〃	30	(1)		30			歯科医学の基礎及び臨床的な知識を学び、口腔機能について説明することができる。	◎	○	○	○	△
	音声・言語・聴覚医学	呼吸・発声・発語系の構造・機能・病態 Structure, Function, Pathology/Neurology	〃	〃	30	(1)		30			脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍を中心に主な脳神経外科疾患の病態、診断、治療に関して説明することができる。	◎	○	○	○	△
		聴覚系の構造・機能・病態 Structure, Function, Pathology/Respiration, Phonation, Articulation	〃	〃	30	(1)	30				呼吸・発声・発語系器官についてその構造及び機能について学び、聴覚障害、音声障害、言語障害を理解し、言語聴覚士に必要な知識について説明することができる。	◎	○	○	○	△
		神経系の構造・機能・病態 Structure, Function, Pathology/Audition	〃	〃	30	(1)	30				聴覚系の末梢から中枢にいたる構造や神経機能、病態などについて説明することができる。	◎	○	○	○	△

言語聴覚士学科(昼間部2年制)

系列		開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	単位 数	1 年		2年		講義概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
							前期	後期	前期	後期						
専門基礎分野	心理学	心理測定法Ⅰ Psychological Measurement MethodⅠ	必修	講義	15	(1)	15				人間の知覚世界と現実世界とのずれの測定法を学ぶ。現象の測定、数理化方法などの基本的考え方を説明できるようになる。	◎	○	○	△	△
		心理測定法Ⅱ Psychological Measurement MethodⅡ	〃	〃	15	(1)		15			人間の知覚世界と現実世界とのずれの測定法を学ぶ。現象の測定、数理化方法などの基本的考え方を説明できるようになる。	◎	○	○	△	△
		臨床心理学Ⅰ Clinical PsychologyⅠ	〃	〃	30	(1)		30			臨床心理の基礎的理論や心理検査体験、心理法について様々な症例を通して理解できるようになる。	◎	○	○	○	△
		臨床心理学Ⅱ Clinical PsychologyⅡ	〃	〃	30	(1)			30		臨床心理の基礎的理論や心理検査体験、心理法について様々な症例を通して理解できるようになる。	◎	○	○	○	△
		生涯発達心理学Ⅰ Developmental PsychologyⅠ	〃	〃	30	(1)	30				乳児期から成人期までの発達段階の心の諸側面、発達の様相及び発達理論について説明できるようになる。	◎	○	○	△	△
		生涯発達心理学Ⅱ Developmental PsychologyⅡ	〃	〃	30	(1)		30			乳児期から成人期までの発達段階の心の諸側面、発達の様相及び発達理論について説明できるようになる。	◎	○	○	△	△
		学習認知心理学 Learning and Cognitive Psychology	〃	〃	30	(1)		30			知覚、記憶、思考、学習など人の知的側面について心理学的効果を学び、認知機能の形成過程について説明できるようになる。	◎	○	○	△	△
	言語学	言語学Ⅰ LinguisticsⅠ	〃	〃	30	(1)	30				言語の基本的な性質や研究分野の種類や研究方法を概観し、現代日本語の分析に必要な意味論や統語論について説明できるようになる。	◎	○	○	△	△
		言語学Ⅱ LinguisticsⅡ	〃	〃	30	(1)		30			言語の基本的な性質や研究分野の種類や研究方法を概観し、現代日本語の分析に必要な意味論や統語論について説明できるようになる。	◎	○	○	△	△
		言語学演習Ⅰ Linguistics practiceⅠ	〃	演習	15	(1)	15				ことばの持つ意味を考え、コミュニケーションとしてのことばをやり取りから理解できるようになる。	△	○	○	◎	○
		言語学演習Ⅱ Linguistics practiceⅡ	〃	〃	15	(1)		15			コミュニケーション障害の評価と患者、家族支援について学び、その方法を演習を通して理解できるようになる。	△	○	○	○	◎
	音声学	音声学Ⅰ PhonologyⅠ	〃	〃	30	(1)	30				言語の臨床家として必要な音声の知識と技能を習得し、活用できるようになる。	◎	○	○	△	△
		音声学Ⅱ PhonologyⅡ	〃	〃	30	(1)		30			構音に障害のある人たちの構音を聞き取り、IPAの表記方法を身につけることができる。	◎	○	○	△	△
	音響学	音響学 Acoustics	〃	〃	30	(1)	30				音響学・聴覚心理学の基礎的知識を理解し講義を通して科学的な分析能力を養う。特に音響物理と聴覚情報処理の生理機構について理解できるようになる。	◎	○	○	△	△
		聴覚心理学 Psychoacoustics	〃	〃	30	(1)		30			人が音をどのように感じるのかに関する知識を習得し、言語聴覚士として聴覚の機能を理解する。	◎	○	○	△	△
	発達言語学	言語発達学 Language Development	〃	〃	15	(1)	15				子どもの前言語期から児童期までの各発達段階の言語能力、抽象概念、論理性などの知能、思考の発達について理解できるようになる。	◎	○	○	○	○
	社会福祉・教育	社会保障制度 Social Security System	必修	講義	30	(1)	30				現代社会の社会福祉の分野別サービス、援助活動、医療との関連性やその重要性について説明できるようになる。	◎	○	○	△	△
		リハビリテーション概論 Introduction to Rehabilitation	〃	〃	15	(1)	15				リハビリテーションの理念や概念を理解し、医学的、社会的、職業的教育的リハビリテーションについて説明できるようになる。	◎	○	○	○	○
		医療・福祉・教育関係法規 Related Regulation	〃	〃	15	(1)		15			医事法規概論、言語聴覚士法、関係法規、医療過誤などについて説明できるようになる。	◎	○	○	△	△

言語聴覚士学科(昼間部2年制)

系列		開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	単 位 数	1 年		2 年		講義概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
							前期	後期	前期	後期						
専門分野	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害概論 Introduction to Speech Pathology	〃	〃	30	(1)	30				言語聴覚障害の分類と各障害の特徴を学ぶ。 また言語聴覚士法を理解し、言語聴覚士の役割について説明できるようになる。	◎	○	○	○	○
		言語聴覚障害診断学Ⅰ Diagnostic Methods in Speech PathologyⅠ	〃	〃	30	(1)	30				言語聴覚障害の評価、診断、治療法の立案、 治療方法などについて説明できるようになる。	◎	○	○	○	○
		言語聴覚障害診断学Ⅱ Diagnostic Methods in Speech PathologyⅡ	〃	〃	30	(1)			30		言語聴覚障害の評価、診断、治療法の立案、 治療方法などについて説明できるようになる。	○	◎	○	○	○
		言語聴覚障害診断学Ⅲ (画像診断を含む) Diagnostic Methods in Speech PathologyⅢ	〃	〃	30	(1)			30		言語聴覚障害の評価、診断、治療法の立案、 治療方法などについて説明できるようになる。	○	◎	○	○	○
	失語・高次脳機能障害学	失語症Ⅰ AphasiologyⅠ	〃	〃	30	(1)	30				脳の損傷部位や範囲により生じるさまざまな タイプ、重症度の失語症について、その症状、 検査法、治療法について説明できるようになる。	◎	○	○	○	○
		失語症Ⅱ AphasiologyⅡ	〃	〃	30	(1)	30				脳の損傷部位や範囲により生じるさまざまな タイプ、重症度の失語症について、その症状、 検査法、治療法について説明できるようになる。	◎	○	○	○	○
		失語症Ⅲ AphasiologyⅢ	〃	〃	30	(1)		30			脳の損傷部位や範囲により生じるさまざまな タイプ、重症度の失語症について、その症状、 検査法、治療法について説明できるようになる。	○	◎	○	○	○
		失語症Ⅳ AphasiologyⅣ	〃	〃	30	(1)			30		脳の損傷部位や範囲により生じるさまざまな タイプ、重症度の失語症について、その症状、 検査法、治療法について説明できるようになる。	○	◎	○	○	○
		高次脳機能障害Ⅰ higher brain dysfunctionⅠ	〃	〃	30	(1)		30			神経心理学的な考え方と高次の認知機能及び その障害について学び、評価方法、治療方法 について説明できるようになる。	◎	○	○	○	○
		高次脳機能障害Ⅱ higher brain dysfunctionⅡ	〃	〃	30	(1)			30		高次の行為・動作、遂行及び注意機能の障害 について学び、評価方法、治療方法について 説明できるようになる。	◎	○	○	○	○
		高次脳機能障害Ⅲ higher brain dysfunctionⅢ	〃	〃	30	(1)			30		記憶のメカニズム、記憶障害の評価、訓練方 法について学ぶ。また、認知症の病態、支援 方法について説明できるようになる。	◎	○	○	○	○
	言語発達障害学	言語発達障害概論 Introduction to Delayed Language Development	必修	演習 講義	30	(1)		30			言語発達に障害を及ぼす原因について学び、 評価方法、訓練方法を理解できるようになる。	○	○	◎	○	○
		精神発達遅滞 Mental Retardation	〃	講義	30	(1)		30			精神発達に遅れを及ぼす原因及び治療方法を 説明できるようになる。	◎	○	○	○	○
		脳性まひ Cerebral Palsy	〃	〃	30	(1)			30		脳性まひの基本的障害の理解を深めるととも に、言語聴覚障害の特徴、指導、訓練につい て説明できるようになる。	◎	○	○	○	○
		自閉症 Autism	〃	〃	30	(1)		30			言語聴覚士として自閉症をとらえる枠組み、 自閉症のある子どもに対する支援システムの あり方などについて説明できるようになる。	◎	○	○	○	○
		学習障害 Learning Disorders	〃	〃	30	(1)			30		言語聴覚士として学習障害をとらえる枠組 み、学習障害のある子どもに対する支援シス テムのあり方などについて説明できるようにな る。	◎	○	○	○	○
		小児高次脳機能障害 Higher Brain Dysfunction in Children	〃	演習 講義	30	(1)			30		小児の神経学的異常について原因を学び、評 価の仕方、治療方法について理解できるよう になる。	○	◎	○	○	○

言語聴覚士学科(昼間部2年制)

系列	開講科目名 (英語表記)		必修 選択	授業 形態	時間 数	単位 数	1 年		2年		講義概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
							前期	後期	前期	後期							
専門分野	発声・発語・嚥下障害学	構音障害	音声障害 Voice Disorder	〃	〃	30	(1)			30		音声（発声）障害の種類とその内容、検査法、及び治療の理念とその方法について理解できるようになる。	◎	○	○	○	○
			構音障害概論 (機能性含む) Introduction to Articulation Disorders	〃	〃	30	(1)		30		構音のメカニズムを学び、国際音声字母の表記ができるようになる。	◎	○	○	○	○	
			口蓋裂 Cleft Palate	〃	〃	30	(1)			30		器質的問題によって生じる構音障害を理解し、評価、治療方法について理解できるようになる。	◎	○	○	○	○
			口腔中咽頭癌 Oropharyngeal Cancer	〃	〃	30	(1)			30		小児にみられる機能性構音障害の様態を理解し、障害音の正常構音指導法、系統的構音訓練に必要な検査・評価・訓練技能を身につけることができる。	◎	○	○	○	○
			運動性構音障害 Dysarthria	〃	〃	30	(1)		30		発声、発語に関与する神経、筋の疾患と、その障害によって起こる構音の問題に関する理解を深め、評価、治療法について理解できるようになる。	◎	○	○	○	○	
		嚥下障害	嚥下障害概論 Introduction to Artuculation Dysphagia	〃	〃	30	(1)	30				摂食・嚥下障害の症状のメカニズムを把握し、検査、評価、訓練の実際について理解できるようになる。	◎	○	○	○	○
			嚥下障害（小児） Dysphagia in Children	〃	〃	15	(1)			15		小児の嚥下障害の評価と訓練について理解できるようになる。	◎	○	○	○	○
			嚥下障害（成人） Dysphagia in Adult	〃	〃	45	(2)			45		成人の嚥下障害についての評価と治療方法について理解できるようになる。	◎	○	○	○	○
		吃音 Stuttering		〃	〃	30	(1)			30		小児の吃音に対する扱い方と成人吃音に対する訓練や対処法について理解できるようになる。	◎	○	○	○	○
	聴覚障害学	聴覚障害概論 Introduction to Impairment of Hearing		〃	〃	30	(1)	30			聴覚障害の分類、原因と発達段階に沿った聴力検査の方法、補聴器の装用と聴能訓練や言語訓練を学び、療育と就学問題、家族の援助方法について理解できるようになる。	◎	○	○	○	○	
	聴覚障害学	小児聴覚障害Ⅰ Impairment of Hearing in ChildrenⅠ		必修	講義	30	(1)		30		聴覚障害児の言語発達の様相、訓練法について説明できるようになる。	◎	○	○	○	○	
		小児聴覚障害Ⅱ Impairment of Hearing in ChildrenⅡ		〃	〃	30	(1)			30		聴覚障害児の言語発達の様相、訓練法について説明できるようになる。	◎	○	○	○	○
		成人聴覚障害 (二重障害を含む) Impairment of Hearing in Adults		〃	〃	30	(1)			30		聴覚系、聴覚障害の基本的な知識を得、成人特有の問題について説明できるようになる。	◎	○	○	○	○
		補聴器 Hearing Aid		〃	〃	15	(1)			15		聴覚障害者（児）に対し、最良と考えられる補聴器の適合、評価、装用指導する為の聴能学、補聴学に基づく理論、技術を身につけることができる。	◎	○	○	○	○
		人工内耳 Artificial Cochlea		〃	〃	15	(1)			15		聴覚系の基礎である、構造・機能・病態を復習する。これらを再度確認したうえで、人工内耳の適応疾患について理解できるようになる。	◎	○	○	○	○
		聴力検査 Evaluation of Acoustics		〃	〃	30	(1)		30			各種聴力検査の目的、方法について説明できるようになる。	◎	○	○	○	○
	臨床実習 Clinical Activities			〃	実習	480	(12)			480		臨床現場において言語聴覚士として必要な知識・技能、患者対応のあり方について理解できるようになる。	○	◎	○	○	○
国家試験対策 Exercise for State Examination			〃	講義	30	(1)			30		国家試験対策を行うことにより国家試験に合格できる実力を身につけることができる。	◎	○	○	○	○	
総時間数					2310	(81)	570	690	540	510							